

○長塚こずえ* 井澤尚子** 椋梨純枝*³ 青木迪佳*⁴ 天羽教子*⁵

(* 東京家政大 ** 東京家政学院短大 *³ 宇部短大

*⁴ 県立長崎シーボルト大 *⁵ 愛知女子短大)

< 目的 >

高齢者の男女の性別を対象に、黑白図柄に色彩要素を加えた時、図柄の好みがどのように変化するかを検討する。

< 方法 >

第1報～第3報では、65歳以上の健康な男女を対象として25の黑白図柄の嗜好を報告した。第4報～第6報では、同じ図柄を用いて赤、黄、緑、青、紫の5色の色柄を資料とし嗜好の傾向を明らかにした。以上の黑白図柄と色柄の好みの結果を基に、図柄の好みの順位変化と和柄、洋柄といった図柄の好みの傾向について、男女別の性別特性を明らかにする。

< 結果 >

25の黑白図柄の嗜好順位と色柄の嗜好順位を単純に比較すると青海波S、木の葉Pの上位は同じだが、色が加わることによって嗜好の順位に変動があり、好みの図柄に色彩の影響が見られる。男性では縞柄Hが青の3位以外はどの色に対しても2位で嗜好性が高い。女性は青海波、木の葉に続いて小紋Oの嗜好が高く、赤・紫は3位、緑5位、青6位と上位になっている。その他の柄に対して、男性は色によって図柄の好みに差があるが、女性は色による図柄の好みに差は少ない傾向が見られる。これは男性よりも女性の方が日常生活において色柄に対する豊富な体験があることが考えられる。好まれる色柄上位10を和柄、洋柄、その他の柄、の3種と色毎の性別のクロス集計では、赤・緑は3種共、女性の嗜好が高く、黄は和柄に男性の嗜好が高く、青・紫は男女に差は認められなかった。